

ぽっかぽか



2月



どう組



一年の中で最も寒さが厳しい頃を意味する「大寒」(1/20)を過ぎ、少しずつ日が暮れる時間も遅くなってきました。外遊びでは積極的に上着を脱いで遊ぶ姿。去年はあまり見られなかった給食のおかわりをする姿。自分の気持ちを言葉で伝える姿など、心も体もたくましくなっているのを感じます。

3月10日に進級し「きりん組」になると、隣には自分達よりも下の学年がきます。そこで、今月は異年齢交流について書かせていただきました。

縦割り保育の良さとは？

あおぞら保育園の初年度は3・4・5歳児の異年齢クラスでした。2年目から3・4歳児クラスにかわり、3年前から横割りのクラスになっています。子どもの発達に合わせた保育、環境を考える上で、横割りにするメリットが大きかったからです。一方で、縦割り保育の良さは、「良いモデル」でした。上の学年が良い手本となり、下の子がそれを見て学び。自分達が上の学年になった時に、同じように接する。

縦割り保育の良さも取り入れようと、職員で試行錯誤し、異年齢で関わる時間を設定しています。例えば、自由遊びの時間に、きりん組の部屋で過ごし、遊びを教えてもらう。年長組と散歩に行き、交通ルールや散歩の仕方を教えてもらう。年中組のお集まりに参加してみる。そして、先月から「お当番見習い」がスタートしています。

異年齢交流～お当番見習い～

「役割」を意識して取り組む活動として「お当番活動」をしています。

子どもたちにとって「お当番」という言葉の意味は、よく分かっていないかもしれませんが、「役割がある!」「特別な事!」として、とても憧れの存在になっています。

当番の内容は

- ①事務所と給食室に朝の挨拶と人数報告をする。
- ②クラスの朝の集まりの時に、朝の挨拶と人数報告をする。
- ③おやつの時に、「いただきます。」と「ご馳走様」の号令をする。

以上の3つになります。簡単な事のように感じるかもしれませんが、2人1組で行う為、声を揃える事、声の大きさ、立ち姿、人前で話すなど子どもたちにとっては意識することばかりです。

本来は、きりん組になってから行う「当番活動」ですが、進級前に「お手本」をみせてもらおうと、「お当番見習い」として、きりん組のお当番について行きます。特に立ち方や挨拶の仕方、声の大きさなど、きりん組のお当番を見た子どもたちの感想は皆「かっこよかった!」と話しています。

「良いモデル」をお手本にしているから、部屋でも素敵な姿を見せてくれます。教えなくても自分達で近づこうとする。縦割り保育の良さである「やらされるのではなく、自分からやる!!」まさに主体性です。

一年後には、お手本となる番。きっと素敵な「お当番」をしてくれると確信しています。楽しみです。